

令和3年度 教育・環境委員会だより

北海道PTA連合

令和3年12月21日発行

令和3年12月4日(土)に今年度最後の第3回委員会が開催されました。出席者が7名と少ない中での委員会でしたが、干山委員長ごあいさつの後、予定しておりました下記の内容について、1時間半ほどにわたり、有意義な時間を過ごすことができました。

1. 令和4年度北海道ブロック研究大会オホーツク北見大会の提言発表校 (PTA) 選定

今回の委員会で、令和4年度日P北海道ブロック研究大会オホーツク北見大会の提言発表PTAを決定する予定でしたが、十分に各地区の取組について交流を図ることができず、情報提供を教育・環境委員にお願いしました。今後、いただいた情報をもとに提言発表PTAについて検討していきたいと考えております。

2. 今年度の取組や研究のまとめと次年度の方向性

(1) 活動計画

- ① 研究テーマ 子どもとともに 大人も学び合い心豊かな共育を目指して
～子どものために、大人がどう行動するか～

② 研究の視点

研究内容1 子どもの教育活動

ア 生活習慣の改善を目指す活動

- a 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 b 生活リズムの確立 c あいさつ運動の推進

イ 心を育てる活動

- a 自然や社会での体験活動 b 家庭や地域での活動 c たくましい心を育む活動

研究内容2 大人の環境整備活動

ア 安心安全な地域づくり イ 子どもを守り育てるための研修 ウ 子どもへの働きかけ

③ 今年度の具体的な活動

ア 令和4年度日P北海道ブロック研究大会北見大会の提言発表に向けて、研究の具体を絞りこむ
(研究内容2「大人の環境整備」に関わって)

イ 各地区PTAの実践交流について (令和4年度の提言発表を視野に入れた各地区の実践交流)

(2) 成果と課題

① 成果

ア 令和3年度日P北海道ブロック研究大会 (岩見沢大会における提言の取り扱いについて)

昨年度の本委員会の協議でキーワードとなっていた「親の学び」については今年度についても引き続き意見交換を行い、各地区PTAの取組の交流を重ねてきた。

今年度は、本委員会が令和元年度日P北海道ブロック研究大会函館大会で提言予定であった「富良野東小」の取組は保護者が学ぶ機会として大変良い実践であり、何らかの形で発表の場の設定を考え、令和3年度の日P北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会での第2分科会「家庭教育」で、改めて提言を行う予定としていた。しかし、本年度も研究大会が中止となったことから、発表の場を設定することができなかった。

今年度の委員会では、コロナ禍において、zoom等を活用するなど、各地区では工夫した研修会の実践が多くみられるため、「コロナ禍においても行うことができるPTA活動」を交流してきた。

特に、「親の学び」を念頭に置いた協議や各地区PTAの取組を交流することができたのが成果と言える。

イ 令和4年度日P北海道ブロック研究大会における提言の構想について

これまでに本委員会における令和4年度の提言は「研究内容2 大人の環境整備活動」を研究の対象にすることを確認しており、コロナ禍における各地区・各単Pの取組を集約することとした。具体的には、コロナ禍においてもできる「大人の学び」についての活動の交流を通じて、各地区で模索している活動実践を提言として発表できるように準備を進めた。各地区での研究大会をもとに、提言実践を選定する。

ウ 各地区PTAの実践交流について

コロナ禍での各地区の研究大会や研修会の実施方法や委員会で話し合われた。実施可能なアイデアを全道のPTAに紹介し、活動の参考としてもらった。地区Pでの工夫された活動・取組の交流は非常に有意義なものとなった。具体的には、コロナ禍を配慮し、集合型の講演会等を行う際には、参加人数を制限したり、別途YouTube配信などを併用し（ハイブリット型）、集まる人数を少なくするが、インターネットで多くの方に参加してもらえるようにしたり、工夫をして開催することができた。これらは、「活動を止めないPTA」の在り方を検討していく上でも、有効な開催方法であった。また、集合型の講演会を開催した地区でも、会場の収容人数の半分に制限をして開催している。講師についても、現地に来ていただくのではなく、東京からオンラインで講演を行うことも可能であった。さらに、オンラインでの配信では、当日だけではなく、期間を設けることで、会員の都合のいい日、時間帯で参加できた。

② 課題

今年度は、本委員会も感染状況を考えながら、話し合いをもち、PTA活動を前に進めるように取り組んできた。委員が全員集まれない状況で、次年度の提言発表を決めることが難しかった。今後も、次年度の発表内容を検討しながら決定していくことが必要である。

オンラインでの講演会が今後も増える可能性を考え、PTAでそれが行えるシステムを作っていく必要がある。また、講演会だけではなく、会議等へのオンライン活用についても検討していく必要がある。今後も見通しをもって活動を進めていくことが大切であり、今後の課題となってくる。

(3) 次年度の方向性

令和4年度日P北海道ブロック研究大会北見大会の提言発表を行う。研究内容は、「2 大人の環境整備活動」であり、具体的には「安心安全な地域づくり」「子どもを守り育てるための研修」「子どもへの働きかけ」についての実践内容の提言となる。しかし、コロナ禍で、今年度十分な活動ができなかった地区も多くある。そんな中でも、実施可能なPTA活動のアイデアを全道に紹介し、活動の参考としてもらいたい。各地区・各単Pの実践を踏まえた提言発表選出を行ってきたので、大会での発表に向けて準備を進める必要がある。

3. 各地区の活動、地区研究会の交流

○学校に導入されている「クロームブック等」について、親と先生の研修により、子どもの学習の様子がわかったり、親子の会話の話題になったりしている。

○「スマホ等の安全教室・研修会」を行うことで、インターネットの正しい使い方やルール作りの参考になっている。

○「SDGs」についての研修会等が行われた。

○アンガーマネジメントに関する研修等が行われた。

(ハラスメントの防止、子どものしかり方等)

*委員の皆様には、お忙しい中、委員会へのご出席、ご意見をいただき、ありがとうございます。また、各地区での活動もありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

*「委員会だよりNO.3」は道P連のホームページ「教育・環境委員会だより」に掲載します。